

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年3月31日				
丘のりんご						
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		施設基準は満たせており、事業所のガレージや公園で活動をしたりすることで、個別に対応するスペースを必要とするときや体を動かしたいとき、時間差での利用などと工夫している。	こども達の発育に伴う狭さは感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			送迎との絡みで、負担を感じる場面も見られる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		視覚で分かりやすく工夫したり、室内の物品が分かりやすいように整頓され、使いやすい状態になっている。更に創意工夫を重ね、空間の効果的利用を目指している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		常に清潔に心掛けて清掃をしている。体を動かす時はガレージを活用するなどして臨機応変に動ける。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		こどもが一人で過ごす必要がある場合のスペースがあり、個々の状態に応じられる様な環境である。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者あてにアンケートを実施して改善につなげている。保護者向け評価表や保護者会などでの意見を受け止め改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		面談を行ったりしてよりよい方向付けとなるようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4		第三者評価を行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		内部・外部を含めて自己研鑽に努める組織づくりを意識している。外部研修には積極的に参加するようにしている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		保護者、本人と面談を行い保護者と本人のニーズに沿った計画になるよう努めている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			放課後等デイサービス計画が職員間で共有されているか
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		こども一人ひとりについて、その日の様子など職員間で共有を図っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			

	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	インフォーマルなアセスメントにも十分 フォーカスできるよう協働した場面も持っ ている。 週の指導計画、企画などは職員間で常に話し 合い共有している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	子どもの意見も反映できるように企画を考え ている。 様々な体験ができるよう日々の活動、企画を 考えている。	動的及び静的な活動を発達支援 5 領域とも絡 めながらマンネリ化を打破していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放 課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		動的及び静的な活動を発達支援 6 領域とも絡 めながらマンネリ化を打破していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の 内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行って いるか。	6	こどもの利用開始前に打ち合わせをして支援 の確認をしている。 職員間でのコミュニケーションは常にとっ ている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援 の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	気が付いたこと気になることは共有するよ うにしています。 日々の話し合い、打ち合わせ、反省は大切な 時間となっている。 毎日の記録を記入しながら、その日の振り返 りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に つなげているか。	6	毎日記録を取り次の支援につなげるようにし ています。 毎日の様子を記録し共有し、より良い支援に つなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し の必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組 み合わせて支援を行っているか。	6	個別支援計画に組み込み支援している。	動的及び静的な活動を発達支援 5 領域とも絡 めながらマンネリ化を打破していきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決 定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	自己決定・自己選択を促し、自立を見通した 支援を行っている。 自己選択、自己決定のできやすい活動内容を 工夫している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議 に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	児発管への情報集積に努めている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、 教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時 刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡） を適切に行っているか。	6	迎えに行った際、学校での様子を聞いて職員 間で共有している。 学校側からの相談も増えてきているように、 よく認知されてきている。 学校の情報共有・連携は送迎時や電話連絡等 により小まめに取るようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支 援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所 等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等して いるか。	6	相談員との情報共有を十分に行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスー パーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動す る機会があるか。	6	土曜日、長期休みに計画して交流の場を設け ている。 児童クラブの子ども達とクリスマス会など をして交流している。 放課後児童クラブから声かけもいただき 双方向での連携に端緒となっている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		

保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6				
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		法人主催で外部講師（心理士）によるペアレント・トレーニングを年6回、毎年行っており、10年が経過している。		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6				
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6				児童期であるが故の保護者の思いや願いがどうしても強まってしまいう傾向にあり保護者の意思が優先される傾向にあると感じる。そのような場合にこどもの最善の利益を優先することを改めて関係者間で確認をしていく必要がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		個別支援計画の内容と一緒に確認したうえで、サインを頂いている。		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		ご家庭で困っているときは相談内容に応じた支援を行っている。 子育ての悩みについて享受できている。 送迎時、連絡帳、電話などによりいつでも相談応じられるような対応をとっている。		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		年に3回保護者会を開催し、保護者同士での交流の場を設けている。 年に3回保護者会を開催し、活動内容を伝えたり、保護者同士で交流ができる場を設けている。		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		報・連・相、確・連・報の徹底に努める。 苦情対応マニュアルに従い迅速に対応している。		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月1回通信を発行している。		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6				
非常時等の対応	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		地域行事に率先して参加し、ハロウィンでは地域を主体的に巻き込めるような活動に努めている。		
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6				
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		年3回避難訓練を計画し行っている。		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6				
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		飲食をする場合は必ずアレルギーの有無を確認しています。 保護者と密に話し合いをしている。また、アレルギーの通院結果を共有している。		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し研修会には必ず参加するようにしている。		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		年3回の保護者会において各家庭に周知している。		
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット事例は、記録を残して職員間で共有している。			
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		毎月1回虐待防止委員会で研修を行い、職員間で情報共有し、支援に繋げている。			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		身体拘束の3要件を満たすまでの該当はなし。 保護者の理解、協力を得ている。 対象児には組織全体で話し合い保護者への説明と共に個別支援計画に記載している			